

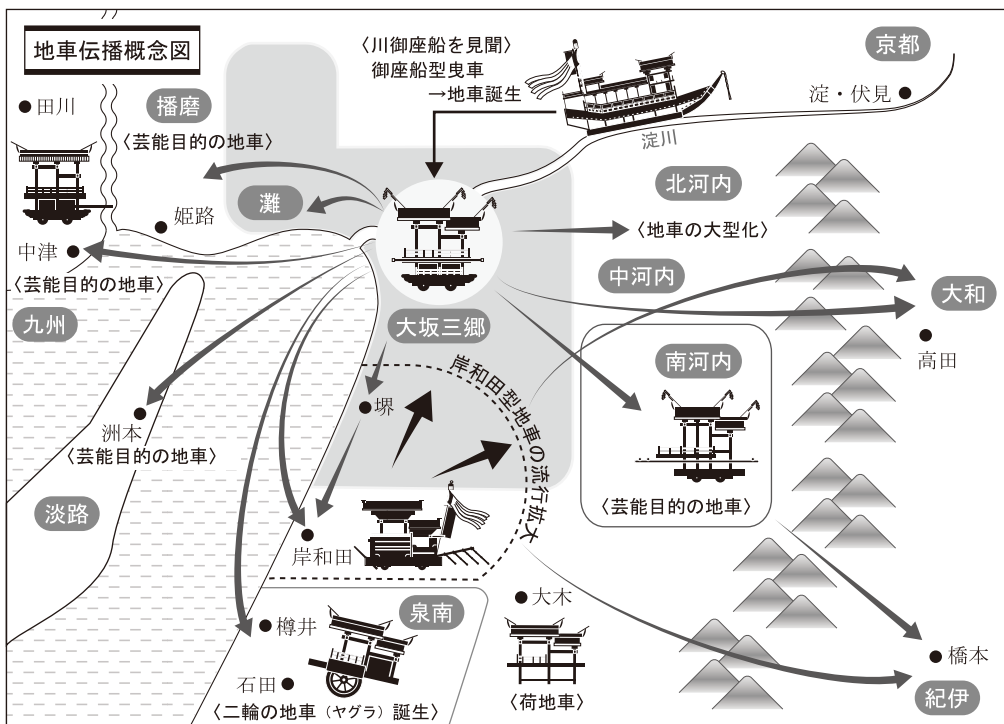
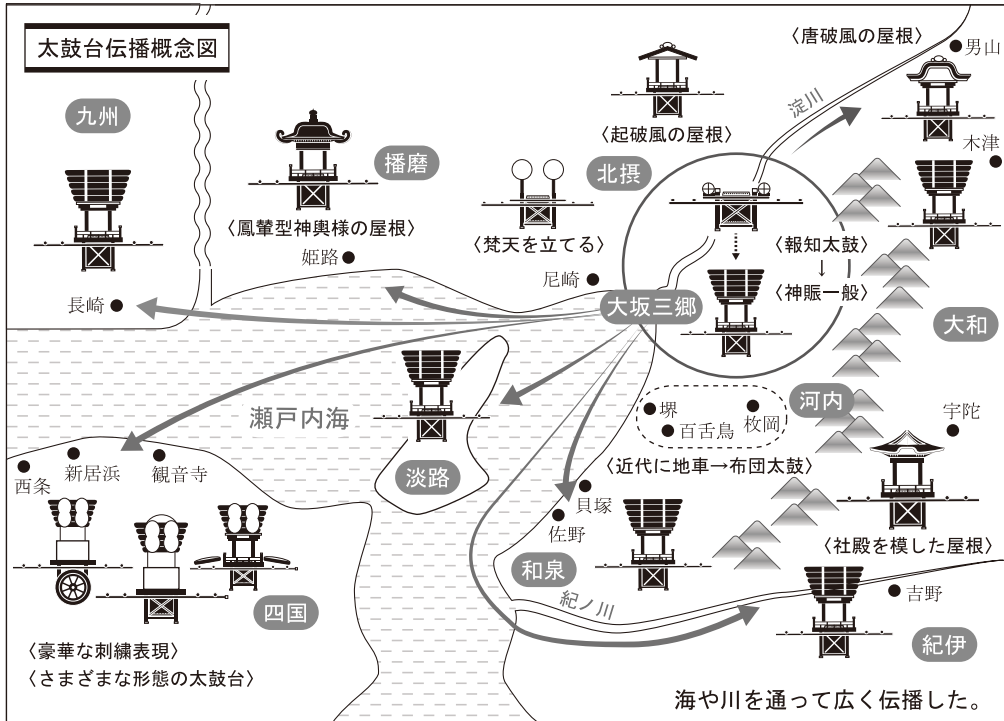
森田玲『日本の祭と神賑 京都・摂河泉の祭から読み解く祈りのかたち』創元社

・2015年7月20日 第一版第一刷
 ・2019年3月20日 第一版第三刷

〈正誤・変更表〉

頁	初版一刷	初版三刷
7下	着飾った子供	着飾った乗子
12上	神賑行事にあたる。	「神賑行事」にあたる。
20中	大阪から伏見までは	大阪から淀・伏見までは
39上	明治二十四年（一八九一）	昭和二十四年（一九四九）
57下	八角形の鳳輦型神輿で	八角形の円堂型神輿で
58上	後白川上皇	白河院
81上	チューサジャ	チューサジャ
82上	支持の下	指示の下
86下	あるいえよう。	あるといえよう。
95上	伏見までは	京都の玄関口である淀・伏見までは
96上	『日本二千年袖鑑拾遺』	『日本唐土二千年袖鑑拾遺』
96下	享保元年（一八〇一）	享和元年（一八〇一）
105上	地車のよりも	地車よりも
108上	『日本二千年袖鑑拾遺』	『日本唐土二千年袖鑑拾遺』
108下	『日本二千年袖鑑拾遺』	『日本唐土二千年袖鑑拾遺』
113下	京都の伏見まで	淀・伏見まで
114上	むしろ地車を「地車を唐破風	むしろ地車を「唐破風
114下	伏見までは	淀・伏見までは
119上	『日本二千年袖鑑拾遺』	『日本唐土二千年袖鑑拾遺』
124下	ダンジリの語源については『嬉遊笑覧』などに諸説見えるが、	ダンジリの語源については『嬉遊笑覧』
130下	いまだ謎である。	に諸説見えるが、宮本圭造の「だんちり舞」（中世の鞆鼓稚児舞）に求める説が有力。
147図	この唐獅子に絞って	この唐獅子に絞って
152上	中寅 中卯	下寅 下卯
152下	旧曆十一月中卯日	旧曆十一月下卯日
175下	旧曆十一月中卯日	旧曆十一月下卯日
200上	前日の十一月中寅日	前日の十一月下寅日
202図	昭和三十年（一九五五）	昭和三十一年（一九五六）
213図	大勢には至らず	（余白不要）
219下	先祭	前祭
	太鼓台・地車伝播概念図	別紙に添付
	追加	宮本圭造「だんじり」溯源『祇園囃子の源流―風流拍子物・鞆鼓稚児舞・シャギリ』岩田書院、二〇一〇年

赤色は特に重要な訂正・追加箇所



森田玲『日本の祭と神賑 京都・摂河泉の祭から読み解く祈りのかたち』創元社（第一版第三刷）